

各救命救急センター設置病院長  
各救急告示病院長  
各病院群輪番制病院長 } 様

京都府健康福祉部医療課長

令和6年度救急医療業務実地修練に係る受講者の募集について

平素は、京都府の救急医療行政の推進に格別の御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、厚生労働省においては、救急医療対策の一環として、救急医療施設等に勤務する医師等を対象に、上記研修が実施されてきたところです。

今年度についても、研修が開催されることとなりましたので、受講希望者がいる場合は、下記により御推薦ください。

記

1 講習会概要

	場所	研修実施期間
医師救急医療業務 実地修練	○合同研修 オンライン研修	合同研修：令和7年1月22日（水）～24日（金） 施設研修：令和7年2月13日（木）～14日（金）
看護師救急医療業務 実地修練		合同研修：令和7年1月20日（月）～24日（金） 施設研修：令和7年2月5日（水）～7日（金）
医療機関に所属する 救急救命士業務実地 修練	○施設研修 病院実習	合同研修：令和7年1月21日（火）～23日（木） 施設研修：令和7年1月30日（木）～31日（金）

2 研修内容 プログラム(案)のとおり(※京都健康医療よろずネットに12月20日付けで掲載)

3 その他 別添実施要領を参照のこと。

4 提出期日及び提出方法

**令和7年1月6日（月）まで**に電子メールにより下記担当者あて提出すること。

※メール送信後、必ず電話により連絡すること。

※期日までに申込みのない場合は希望のないものとして取り扱いますので、御了承ください。

○宛先 京都府健康福祉部医療課 地域医療係 井谷 (a-itani89@pref.kyoto.lg.jp)

○件名 (病院名) 救急医療業務実地修練の申し込み

○提出物 受講申込書 ※京都健康医療よろずネットに12月20日付けで掲載

担	地域医療係 井谷
当	TEL：075-414-4745

令和6年度

医師救急医療業務実地修練  
実施要領

厚生労働省医政局

## 令和6年度医師救急医療業務実地修練実施要領

### 1 目的

本講習会は、救急医療に携わっている医師を対象とし、日常の救急診療能力の向上のみならず、地域救急医療の指導者となる医師の養成を目指すものである。救急診療においては、種々の検査や処置を整然と速やかに行い、救急疾患の病態を把握した合理的で無駄のない診療が重要である。このことから、本講習会では、単に個々の手技を習得するのではなく、これらの組み合わせによる最適な救急診療を、実地修練等を通じて伝達し、各地域における救急医療の指導者となるための知識等を下記目標に従って習得することにより、救急医療における専門性の高い医師の確保に資することを目的とする。

#### (目標)

- ア 救急患者の初期の診断・治療の理論と実際を習得する。
- イ 救急処置を行った後の患者管理の実際を習得する。
- ウ 救命救急センター等への転送の適用と、転送に際して必要な準備と処置を習得する。
- エ 各地域における救急医療の実態を把握し、改善できる能力を習得する。

### 2 対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 二次・三次救急医療施設等に勤務し、救急の第一線で活動している者（日本救急医学会救急科専門医またはそれと同等の知識、技術を有する者）
- (2) 研修実施期間における全ての研修プログラムを受講できる者

### 3 受講者の推薦及び決定

都道府県は、前項に定める対象者のうちから救急医療体制の確保上最も効果の期待できるものを選考し、別紙（1）による受講申込書を1部添付のうえ、厚生労働省医政局地域医療計画課長に推薦するものとする。

厚生労働省医政局地域医療計画課長は、都道府県から推薦のあった者のうちから受講者を決定し、都道府県に通知するものとする。

なお、受講者決定後の研修辞退・受講経費の返金は原則として認めない。

### 4 修了証書

本講習会を受講し、修了した者には修了証書を授与する。

### 5 研修事業実施者

厚生労働省の委託により一般財団法人日本救急医療財団が行う。

一般財団法人日本救急医療財団

代表者：理事長 横田 裕行

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 3-37-4 HF湯島ビルディング7階

電話番号：03-3835-1199

### 6 研修場所及び受講定員

(1) 研修場所

【 合同研修 】

オンラインによる研修

【 施設研修 】

施設研修については、研修病院に出向いての病院実習となる。研修病院は次の15病院を予定している。札幌医科大学附属病院、公益社団法人 筑波メディカルセンター、獨協医科大学埼玉医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、日本医科大学千葉北総病院、日本医科大学付属病院、杏林大学医学部付属病院、昭和大学病院、日本大学医学部附属板橋病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、慈泉会相澤病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪府済生会千里病院、神戸市立医療センター中央市民病院、川崎医科大学附属病院（これらは予定であり、変更があり得る。）研修病院の割り振りについては、研修事業実施者が行うこととなるため、留意すること。

(2) 受講定員 50名

7 研修実施期間

合同研修：令和7年1月22日（水）～1月24日（金）

施設研修：令和7年2月13日（木）～2月14日（金）

8 研修内容

別紙プログラム案を参照。なお、本内容は受講者募集時点での案であり、変更があり得る。

9 受講経費

50,600円（受講者は、指定口座に振り込みとする。）

10 その他

- ・ 受講申込書に記載の内容については、厚生労働省より、委託先である一般財団法人日本救急医療財団へ提供される。
- ・ 施設研修プログラムの参考とするため、受講申込書の内容を日本救急医療財団より、施設研修を行う医療機関に提供する場合がある。
- ・ 講義等は全てオンライン会議システム（Zoom）で配信されるので、オンライン会議システム（Zoom）のアカウントを取得する必要がある。（無料）
- ・ インターネットへの接続は、講義により（特にワークショップ）負荷がかかる場合があるので、講義の質を確保するため、原則、無線での接続は避け、有線での接続とされたい。
- ・ インターネットに接続可能な通信機器（パソコンが望ましい）、Webカメラ（PC内蔵カメラでも可）、ヘッドセット（PC内蔵のマイクとスピーカーでも可）については受講者側が準備すること。
- ・ 受講に係る通信費は受講者側の負担となる。
- ・ 受講決定者には、決定後、研修事業実施者より受講案内（受講経費の振込先の案内も含む）が通知される。

## 医師救急医療業務実地修練受講申込書

(都道府県名 )

ふりがな 受講者氏名			生 年 月 日		男女の別
			昭和・平成 年 月 日( 歳)		男・女
受講者住所	〒 (Tel )				
所属施設 (勤務先)	施設名			救急告示の有無	有・無
	所在地	〒 (Tel )			
	職 名			所属科	
卒業医科 大 学	学 校 名				
	卒業年月	昭和・平成・令和		年	月卒
医師免許	免許番号	第		号	
	取得年月日	昭和・平成・令和		年	月 日
診療科目及び主たる研究 (専門領域)					
救急医療の経験年数		年		か月	
所属施設の年間救急患者数		人			
所属施設の救急医療体制		救命救急センター・病院群輪番制病院・共同利用型病院・なし			
修了証の送付希望先		自宅住所 ・ 勤務先住所			
連絡用メールアドレス		@			
受講経費 振込担当者	氏 名				
	所 属	(Tel )			
	メールアドレス	@			
備 考 (研修を希望する理由及び意見)					

(注) 1 当該研修の受講を希望する理由及びその他受講に対する特記事項について備考欄に記入すること。

2 連絡用メールアドレス欄については、受講決定後、研修実施事業者(一般財団法人日本救急医療財団(kensyu@qqzaidan.jp))より「受講案内」が送信されるので、必ず添付ファイル対応のメール受信ができるメールアドレスを記載すること。

特に、職場のメールアドレスであるためセキュリティ上、メールに添付したファイル、URL が開けない等の問い合わせが多くなっているため、留意願いたい。

3 本申込書は、原則Wordファイルで提出すること。特に、手書きは判読できない場合があるので避けること。

## 令和6年度 医師救急医療業務実地修練プログラム

日 時： 令和7年1月22日（水）～1月24日（金）  
 研修方法： オンライン研修

### ■第1日 令和7年 1月22日（水）

時間		プログラム
9:00 ~ 9:20	(20分)	受付
9:20 ~ 9:30	(10分)	開会挨拶及び事務説明
9:30 ~ 11:10	(100分)	講義 <u>「救急医療の法的問題」</u>
11:10 ~ 11:20	(10分)	休憩
11:20 ~ 12:10	(50分)	ワークショップ <u>「救急医療の法的問題」</u>
12:10 ~ 13:10	(60分)	昼食
13:10 ~ 14:10	(60分)	講義 <u>「救急医療における病院前医療体制」</u>
14:10 ~ 14:20	(10分)	休憩
14:20 ~ 15:20	(60分)	講義 <u>「救急医療と感染症情報 （新興感染症発生・まん延時の感染対策を含む）」</u>
15:20 ~ 15:30	(10分)	休憩
15:30 ~ 16:30	(60分)	講義 <u>「小児救急医療」</u>

令和6年度 医師救急医療業務実地修練プログラム

■第2日 令和7年 1月23日 (木)

時間		プログラム
9:00 ~ 9:20 ~ 9:30	(10分)	接続開始 事務説明
9:30 ~ 10:50	(80分)	※看護師・医療機関に所属する救急救命士 業務実地修練と合同研修  ワークショップ <u>「救急外来、初療室におけるチーム医療1」</u>
10:50 ~ 12:10	(80分)	ワークショップ <u>「救急外来、初療室におけるチーム医療2」</u>
12:10 ~ 13:10	(60分)	昼食
13:10 ~ 15:10	(120分)	ワークショップ <u>「災害・テロ対策に関すること」</u>
15:10 ~ 15:20	(10分)	休憩
15:20 ~ 17:20	(120分)	ワークショップ <u>「災害・テロ対策に関すること」</u>

令和6年度 医師救急医療業務実地修練プログラム

■第3日 令和7年 1月24日 (金)

時間		プログラム
8:30 ~		接続開始
8:50 ~ 9:00	(10分)	事務説明
9:00 ~ 12:40	(220分)	<b>講義・ワークショップ</b> <u>「地域において救急医療施設が果たすべき役割                      (MC含む)に関すること」</u>
12:40 ~ 13:40	(60分)	昼食
13:40 ~ 17:00	(200分)	<b>ワークショップ</b> <u>「救急部門の管理運営に関すること」</u>

令和6年度

看護師救急医療業務実地修練  
実施要領

厚生労働省医政局

## 令和6年度看護師救急医療業務実地修練実施要領

### 1 目的

本講習会は、救急看護業務を行っている看護師を対象とし、日常の救急看護能力の向上を目指すとともに、救急外来等において、患者をトリアージできる知能・技能の習得を目的とする。

### 2 対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

#### (1) 次の各号のいずれかに該当する者

ア 救命救急センター又はそれと同等の施設において、2年以上救急部門、集中治療室（ICU等）などで実務経験のある者

イ 上記の者と同等の経験を有している者で施設長の推薦する者

#### (2) 研修実施期間における全ての研修プログラムを受講できる者

### 3 受講者の推薦及び決定

都道府県は、前項に定める対象者のうちから救急医療体制の確保上最も効果の期待できるものを選考し、別紙（1）による受講申込書を1部作成添付のうえ、厚生労働省医政局地域医療計画課長に推薦するものとする。

厚生労働省医政局地域医療計画課長は、都道府県から推薦のあった者のうちから受講者を決定し、都道府県に通知するものとする。

なお、受講者決定後の研修辞退・受講経費の返金は原則として認めない。

### 4 修了証書

本講習会を受講し、修了した者には修了証書を授与する。

### 5 研修事業実施者

厚生労働省の委託により一般財団法人日本救急医療財団が行う。

一般財団法人日本救急医療財団

代表者：理事長 横田 裕行

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 3-37-4 HF湯島ビルディング7階

電話番号：03-3835-1199

### 6 研修場所及び受講定員

#### (1) 研修場所

【 合同研修 】

オンラインによる研修

【 施設研修 】

施設研修については、研修病院に出向いての病院実習となる。研修病院は次の15病院を予定している。札幌医科大学附属病院、公益社団法人 筑波メディカルセンター、埼玉医科大学総合医療センター、日本医科大学千葉北総病院、日本医科大学付属病院、杏林大学医学部付属病院、昭和大学病院、日本大学医学部附属板橋病院、順天堂大学

医学部附属練馬病院、慈泉会相澤病院、関西医科大学附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪府済生会千里病院、神戸市立医療センター中央市民病院、川崎医科大学附属病院（これらは予定であり、変更があり得る。）研修病院の割り振りについては、研修事業実施者が行うこととなるため、留意すること。

(2) 受講定員 70名

7 研修実施期間

合同研修：令和7年1月20日（月）～1月24日（金）

施設研修：令和7年2月5日（水）～2月7日（金）

8 研修内容

別紙プログラム案を参照。なお、本内容は受講者募集時点での案であり、変更があり得る。

9 受講経費

27,500円（受講者は、指定口座に振り込みとする。）

10 その他

- ・ 受講申込書に記載の内容については、厚生労働省より、委託先である一般財団法人日本救急医療財団へ提供される。
- ・ 施設研修プログラムの参考とするため、受講申込書の内容を日本救急医療財団より、施設研修を行う医療機関に提供する場合がある。
- ・ 講義等は全てオンライン会議システム（Zoom）で配信されるので、オンライン会議システム（Zoom）のアカウントを取得する必要がある。（無料）
- ・ インターネットへの接続は、講義により（特にワークショップ）負荷がかかる場合があるので、講義の質を確保するため、原則、無線での接続は避け、有線での接続とされたい。
- ・ インターネットに接続可能な通信機器（パソコンが望ましい）、Webカメラ（PC内蔵カメラでも可）、ヘッドセット（PC内蔵のマイクとスピーカーでも可）については受講者側が準備すること。
- ・ 受講に係る通信費は受講者側の負担となる。
- ・ 受講決定者には、決定後、研修事業実施者より受講案内（受講経費の振込先の案内も含む）が通知される。

## 看護師救急医療業務実地修練受講申込書

(都道府県名 )

ふりがな 受講者氏名	生 年 月 日		男女の別
	昭和・平成 年 月 日( 歳 )		男・女
受講者住所	〒 (Tel )		
所属施設 (勤務先)	施設名		救急告示の有無 有・無
	所在地	〒 (Tel )	
	職名		所属している科
卒業看護学校 ・養成所	学校名		
	卒業年月	昭和・平成・令和 年 月 卒	
看護師 免許	免許番号	第 号	
	取得年月日	昭和・平成・令和 年 月 日	
救急医療の経験年数	年 か月		
所属施設の年間救急患者数	人		
所属施設の救急医療体制	救命救急センター・病院群輪番制病院・共同利用型病院・なし		
修了証の送付希望先	自宅住所 ・ 勤務先住所		
連絡用メールアドレス	@		
受講経費 振込担当者	氏名		
	所属	(Tel )	
	メールアドレス	@	
備考(研修を希望する理由及び意見)			

(注) 1 当該研修の受講を希望する理由及びその他受講に対する特記事項について備考欄に記入すること。

2 連絡用メールアドレス欄については、受講決定後、研修実施事業者(一般財団法人日本救急医療財団(kensyu@qqzaidan.jp))より「受講案内」が送信されるので、必ず添付ファイル対応のメール受信ができるメールアドレスを記載すること。

特に、職場のメールアドレスであるためセキュリティ上、メールに添付したファイル、

URL が開けない等の問い合わせが多くなっているため、留意願いたい。

3 本申込書は、原則Wordファイルで提出すること。特に、手書きは判読できない場合があるので避けること。

令和6年度 看護師救急医療業務実地修練  
プログラム

日 時： 令和7年1月20日（月）～1月24日（金）  
研修方法： オンライン研修

■第1日 令和7年 1月20日（月）

時間		プログラム
9:30 ~		オンライン接続開始時間
9:50 ~ 10:00	(10分)	開会挨拶及び事務説明
10:00 ~ 11:00	(60分)	講義 <u>「救急医療の現状」</u>
11:00 ~ 11:10	(10分)	休憩
11:10 ~ 12:00	(50分)	講義 <u>「小児医療」</u>
12:00 ~ 13:00	(60分)	昼食
13:00 ~ 13:50	(50分)	講義 <u>「災害医療概論」</u>
13:50 ~ 14:00	(10分)	休憩
14:00 ~ 16:00	(120分)	ワークショップ <u>「災害医療の現状 災害トリアージ DMAT」</u>
16:00 ~ 16:10	(10分)	休憩
16:10 ~ 17:00	(50分)	講義 <u>「災害看護学概論」</u>

**令和6年度 看護師救急医療業務実地修練  
プログラム**

■第2日 令和7年 1月21日 (火)

時間		プログラム
9:00 ~		オンライン接続開始時間
9:20 ~ 9:30	(10分)	事務説明
9:30 ~ 10:20	(50分)	講義 <u>「脳卒中 (ISLS・PSLS)」</u>
10:20 ~ 10:30	(10分)	休憩
10:30 ~ 11:20	(50分)	講義 <u>「ACS」</u>
11:20 ~ 11:30	(10分)	休憩
11:30 ~ 12:20	(50分)	講義 <u>「臓器不全・血液浄化法」</u>
12:20 ~ 13:20	(60分)	昼食
13:20 ~ 14:10	(50分)	講義 <u>「グリーンケアとDMORT」</u>
14:10 ~ 14:20	(10分)	休憩
14:20 ~ 15:10	(50分)	講義 <u>「熱傷」</u>
15:10 ~ 15:20	(10分)	休憩
15:20 ~ 17:20	(120分)	ワークショップ <u>「JNTECの実技」</u>

令和6年度 看護師救急医療業務実地修練  
プログラム

■第3日 令和7年 1月22日 (水)

時間		プログラム
9:00 ~		オンライン接続開始時間
9:20 ~ 9:30	(10分)	事務説明
9:30 ~ 10:20	(50分)	講義 <u>「ドクターヘリにおけるフライトナース」</u>
10:20 ~ 10:30	(10分)	休憩
10:30 ~ 11:20	(50分)	講義 <u>「急性中毒」</u>
11:20 ~ 11:30	(10分)	休憩
11:30 ~ 12:20	(50分)	講義 <u>「呼吸不全」</u>
12:20 ~ 13:20	(60分)	昼食
13:20 ~ 14:10	(50分)	講義 <u>「精神病状を持つ患者へのアプローチ」</u>
14:10 ~ 14:20	(10分)	休憩
14:20 ~ 15:10	(50分)	講義 <u>「高齢者医療」</u>
15:10 ~ 15:20	(10分)	休憩
15:20 ~ 16:50	(90分)	ワークショップ <u>「自施設の救急医療の課題検討 私の施設の救急で困っていること」</u>

令和6年度 看護師救急医療業務実地修練  
プログラム

■第4日 令和7年 1月23日 (木)

時間		プログラム
9:00 ~		オンライン接続開始時間
9:20 ~ 9:30	(10分)	事務説明
9:30 ~ 10:50	(80分)	<p>※医師・医療機関に所属する救急救命士 業務実地修練と合同研修</p> <p>ワークショップ 「救急外来、初療室におけるチーム医療1」</p>
10:50 ~ 12:10	(80分)	<p>ワークショップ 「救急外来、初療室におけるチーム医療2」</p>
12:10 ~ 13:10	(60分)	昼食
13:10 ~ 14:00	(50分)	<p>講義 「救急における安全管理 (新興感染症発生・まん延時の感染対策を含む)」</p>
14:00 ~ 14:10	(10分)	休憩
14:10 ~ 15:40	(90分)	<p>講義・ワークショップ 「意識障害 (ACEC、PCEC)」</p>
15:40 ~ 15:50	(10分)	休憩
15:50 ~ 16:40	(50分)	<p>講義 「脳死と臓器移植」</p>
16:40 ~ 16:50	(10分)	休憩
15:50 ~ 16:40	(50分)	<p>講義 「ERの現状」</p>

**令和6年度 看護師救急医療業務実地修練  
プログラム**

■第5日      令和7年 1月24日 (金)

時間		プログラム
9:00 ~		オンライン接続開始時間
9:20 ~ 9:30	(10分)	事務説明
9:30 ~ 10:20	(50分)	講義 <u>「循環不全」</u>
10:20 ~ 10:30	(10分)	休憩
10:30 ~ 11:20	(50分)	講義 <u>「院内急変対応」</u>
11:20 ~ 11:30	(10分)	休憩
11:30 ~ 12:20	(50分)	講義 <u>「救急患者への対応と緊急度判定」</u>
12:20 ~ 13:20	(60分)	昼食
13:20 ~ 14:50	(90分)	ワークショップ <u>「救急(院内)トリアージの実際」</u>
14:50 ~ 15:00	(10分)	休憩
15:00 ~ 16:30	(90分)	ワークショップ <u>「救急(院内)トリアージの実際」</u>
16:30 ~ 16:40	(10分)	閉会及び事務説明

令和6年度

医療機関に所属する救急救命士  
業務実地修練  
実施要領

厚生労働省医政局

## 令和6年度医療機関に所属する救急救命士業務実地修練実施要領

### 1 目的

本講習会は、医療機関に所属する救急救命士を対象とし、令和3年に改正された救急救命士法の内容を熟知した上で、いわゆる救急外来において、法令に基づいて適切に救急救命処置を実施するために必要な、医療安全、感染対策、チーム医療等についての知識・技能の習得を目的とする。また、医療機関内で救急救命処置を行う救急救命士においては、行政機関、消防機関、医療機関など、多くの関係者に関する横断的な知識の習得が必要となることから、院内の体制のみならず、救急要請から医療機関収容に至るまでの救急医療提供体制についての知識も習得することを目的とする。

さらに、医療機関内で救急医療を担う医師や看護師と合同講習を実施することによって、救急外来における救急救命処置の質の向上と関係者との連携強化を図る。

### 2 対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 救急救命士免許を取得している者であって、医療機関において、現に救急救命士として救急業務に従事している者又はしようとしている者
- (2) 研修実施期間における全ての研修プログラムを受講できる者

### 3 受講者の推薦及び決定

都道府県は、前項に定める対象者のうちから救急医療体制の確保上最も効果の期待できるものを選考し、別紙(1)による受講申込書を1部作成添付のうえ、厚生労働省医政局地域医療計画課長に推薦するものとする。

厚生労働省医政局地域医療計画課長は、都道府県から推薦のあった者のうちから受講者を決定し、都道府県に通知するものとする。

なお、受講者決定後の研修辞退・受講経費の返金は原則として認めない。

### 4 修了証書

本講習会を受講し、修了した者には修了証書を授与する。

### 5 研修事業実施者

厚生労働省の委託により一般財団法人日本救急医療財団が行う。

一般財団法人日本救急医療財団

代表者：理事長 横田 裕行

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島 3-37-4 HF湯島ビルディング7階

電話番号：03-3835-1199

### 6 研修場所及び受講定員

#### (1) 研修場所

【 合同研修 】

オンラインによる研修

## 【 施設研修 】

施設研修については、研修病院に出向いての病院実習となる。研修病院は次の15病院を予定している。札幌医科大学附属病院、公益社団法人 筑波メディカルセンター、埼玉医科大学総合医療センター、日本医科大学千葉北総病院、日本医科大学付属病院、杏林大学医学部付属病院、昭和大学病院、日本大学医学部附属板橋病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、慈泉会相澤病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪府済生会千里病院、神戸市立医療センター中央市民病院、川崎医科大学附属病院、足利赤十字病院（これらは予定であり、変更があり得る。）研修病院の割り振りについては、研修事業実施者が行うこととなるため、留意すること。

(2) 受講定員 50名

### 7 研修実施期間

合同研修：令和7年1月21日（火）～1月23日（木）

施設研修：令和7年1月30日（木）～1月31日（金）

### 8 研修内容

別紙プログラム案を参照。なお、本内容は受講者募集時点での案であり、変更があり得る。

### 9 受講経費

28,600円（受講者は、指定口座に振り込みとする。）

### 10 その他

- ・ 受講申込書に記載の内容については、厚生労働省より、委託先である一般財団法人日本救急医療財団へ提供される。
- ・ 研修施設プログラムの参考とするため、受講申込書の内容を一般財団法人日本救急医療財団より、施設研修を行う医療機関に提供する場合がある。
- ・ 講義等は全てオンライン会議システム（Zoom）で配信されるので、オンライン会議システム（Zoom）のアカウントを取得する必要がある。（無料）
- ・ インターネットへの接続は、講義により（特にワークショップ）負荷がかかる場合があるので、講義の質を確保するため、原則、無線での接続は避け、有線での接続とされたい。
- ・ インターネットに接続可能な通信機器（パソコンが望ましい）、Webカメラ（PC内蔵カメラでも可）、ヘッドセット（PC内蔵のマイクとスピーカーでも可）については受講者側が準備すること。
- ・ 受講に係る通信費は受講者側の負担となる。
- ・ 受講決定者には、決定後、研修事業実施者より受講案内（受講経費の振込先の案内も含む）が通知される。

## 医療機関に所属する救急救命士業務実地修練受講申込書

(都道府県名 )

ふりがな 受講者氏名	生 年 月 日			男女の 別
	昭和・平成 年 月 日( 歳)			男・女
受講者住所	〒 (Tel )			
所属施設 (勤務先)	施設名		救急告示の有無 (医療機関に勤務の 場合のみ記入)	有・無
	所在地	〒 (Tel )		
	職名			
卒業学校 ・養成所	学校名			
	卒業年月	昭和・平成・令和 年 月卒		
救急救命士 免許	免許番号	第 号		
	取得年月日	平成・令和 年 月 日		
救急業務の経験年数	年 か月(救急救命士免許取得後 年 か月)			
所属施設の年間救急患者数	名(医療機関に勤務の場合のみ記入すること。)			
所属施設の救急医療体制 (医療機関に勤務の場合のみ記入)	救命救急センター・病院群輪番制病院・共同利用型病院・なし			
修了証の送付希望先	自宅住所 ・ 勤務先住所			
連絡先メールアドレス	@			
受講経費 振込担当者	氏名			
	所属	(Tel )		
	メールアドレス	@		
備考(研修を希望する理由及び意見)				

(注) 1 卒業学校・養成所欄は救急救命士の資格を得ることとなった学校名を記入すること。

(例：〇〇看護専門学校、〇〇消防学校救急救命士養成課程)

2 当該研修の受講を希望する理由及びその他受講に対する特記事項について備考欄に記入すること。

3 連絡用メールアドレス欄については、受講決定後、研修実施事業者（一般財団法人日本救急医療財団（kensyu@qqzaidan.jp））より「受講案内」が送信されるので、必ず添付ファイル対応のメール受信ができるメールアドレスを記載すること。

特に、職場のメールアドレスであるためセキュリティ上、メールに添付したファイル、URL が開けない等の問い合わせが多くなっているため、留意願いたい。

4 本申込書は、原則Wordファイルで提出すること。特に、手書きは判読できない場合があるので避けること。

## 令和6年度 医療機関に所属する救急救命士業務実地修練 プログラム

日 時： 令和7年1月21日（火）～1月23日（木）  
研修方法： オンライン研修

### ■第1日 令和7年 1月21日（火）

時間	プログラム
9:00 ~	オンライン接続開始時間
9:15 ~ 9:20 (05分)	開会挨拶及び事務説明
9:20 ~ 9:25 (05分)	研修の目的と概要
9:25 ~ 10:05 (40分)	<p>講義  <u>「救急救命士制度の現状と課題」</u>                      ※ 直近の救急救命士法の改正の内容を含む</p>
10:05 ~ 10:15 (10分)	休憩
10:15 ~ 11:05 (50分)	<p>講義「<u>医療機関に搬送されるまでの流れ1</u>」（消防機関の業務と役割）</p>
11:05 ~ 11:15 (10分)	休憩
11:15 ~ 11:55 (40分)	<p>講義「<u>医療機関に搬送されるまでの流れ2</u>」（通信指令の業務と役割）</p>
11:55 ~ 12:55 (60分)	昼食
12:55 ~ 13:45 (50分)	<p>講義「<u>医療機関に搬送されるまでの流れ3</u>」（現場での救急救命処置）</p>
13:45 ~ 13:55 (10分)	休憩
13:55 ~ 14:45 (50分)	<p>講義  <u>「医療機関での救急救命士の業務」</u></p>
14:45 ~ 14:55 (10分)	休憩
14:55 ~ 15:55 (60分)	<p>講義  <u>「救急外来、初療室における医療安全」</u></p>
15:55 ~ 16:05 (10分)	休憩
16:05 ~ 17:05 (60分)	<p>講義  <u>「救急外来、初療室における感染対策」</u>                      （新興感染症発生・まん延時の対策を含む）</p>

**令和6年度 医療機関に所属する救急救命士業務実地修練  
プログラム**

■第2日 令和7年 1月22日 (水)

時間	プログラム
9:00 ~	オンライン接続開始時間
9:10 ~ 9:20 (10分)	事務説明
9:20 ~ 10:10 (50分)	講義 <u>「救急外来、初療室で実施する心肺蘇生」</u> (研鑽が必要な救急救命処置)
10:10 ~ 10:20 (10分)	休憩
10:20 ~ 11:50 (90分)	講義・ワークショップ <u>「転院搬送における調整と搬送」</u>
11:50 ~ 12:50 (60分)	昼食
12:50 ~ 14:00 (70分)	講義・ワークショップ <u>「救急臨床推論」</u>
14:00 ~ 14:10 (10分)	休憩
14:10 ~ 15:40 (90分)	講義・ワークショップ <u>「救急医療機関における不応需減少への取組」</u>
15:40 ~ 15:50 (10分)	休憩
15:50 ~ 17:20 (90分)	講義・ワークショップ <u>「局地災害時の対応」</u>

令和6年度 医療機関に所属する救急救命士業務実地修練  
プログラム

■第3日 令和7年 1月23日 (木)

時間	プログラム
9:00 ~	オンライン接続開始時間
9:20 ~ 9:30 (10分)	事務説明
9:30 ~ 10:50 (80分)	<p>※医師・看護師救急医療業務実地修練との合同研修</p> <p>ワークショップ 「<u>救急外来、初療室におけるチーム医療1</u>」</p>
10:50 ~ 12:10 (80分)	<p>ワークショップ 「<u>救急外来、初療室におけるチーム医療2</u>」</p>
12:10 ~ 13:10 (60分)	昼食
13:10 ~ 14:05 (55分)	<p>講義 「<u>救急救命士のキャリアアップ</u>」(モデルケース) (司会)</p>
14:05 ~ 14:15 (10分)	
14:15 ~ 15:40 (85分)	<p>講義・ワークショップ 「<u>救急救命士のキャリアアップと生涯教育システム</u>」</p>
15:40 ~ 15:50 (10分)	
15:50 ~ 17:15 (85分)	<p>ワークショップ 「<u>救急救命士制度の将来像と課題</u>」</p>